

【理学部第一部】

卒業認定・学位授与の方針[ディプロマ・ポリシー]

自然科学を体系的に理解し、高い専門性と倫理観、社会に貢献する力、国際的な視野を持った人材の養成を目標とし、以下の知識、能力等を身に付け、各学科で定める所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し、学士（理学）の学位を授与する。

1. 真に豊かな社会の実現のため、自然科学に限らず、人文科学、社会科学などの豊かな教養を修得し、強い倫理観と豊かな人間性を身に付け、専門分野の枠を超えて横断的にものごとを俯瞰できる能力。
2. 数学・物理・化学を中心とする自然科学の十分な基礎学力と、その上に立つ高度な専門知識。
3. 修得した専門知識や教養をもとに、自ら課題を発見し、解決する能力。
4. 修得した専門知識や教養をもとに、論理的・批判的に思考し、積極的な姿勢で判断し、行動する能力。
5. 修得した専門知識や教養をもとに、他者とコミュニケーションをとりながら、国際的な視野を持って、基礎学力を基盤として柔軟に応用展開できる能力。
6. 修得した専門知識や教養をもとに、専門分野に応じたキャリアを形成し、自己を管理する能力。

教育課程編成・実施の方針[カリキュラム・ポリシー]

1. 自然科学分野では、森羅万象に対する理解度の深化とともに、学問分野の拡大と多様化が進展し、社会が求める人材も多様化し、教育すべき内容は増大の一途をたどっている。現実から抽象まで（数学）、素粒子から宇宙まで（物理）、環境から生命まで（化学）、と教育対象が広がる中、「多様化」をキーワードに以下の方針で学士の教育課程を編成する。
2. 真に実力を身に付けた学生のみを卒業させる「実力主義」の伝統を堅持し、厳格な教育課程を実践する。
3. 段階的な知識の修得を図るため、一般的素養を深めるための「一般教養科目」、各専門分野の基盤をなす「基礎科目」、各専門分野に応じた進路に必要な能力を養うための「専門科目」の3種類の授業科目を体系的に配置する。
4. 「一般教養科目」「基礎科目」「専門科目」では、国際性、コミュニケーション能力、他者と協働し創造する力、課題発見・解決力、論理的・批判的思考力、社会に貢献する力、キャリア形成力、倫理観を養う内容を含む科目を配置する。
5. 「一般教養科目」では、専門分野だけに偏ることなく、人間と自然のための科学技術の創造と調和を実現するため、広く深い知識や教養、豊かな人間性や倫理観、判断力・行動力を醸成する科目などの教育課程を編成する。
6. 英語については、短期・長期の留学プログラムを用意するとともに、ネイティブスピーカーが担当する授業を開講するなど、学生の習熟度に応じて多様な授業形態で編成し、学習効果を高める主体的な学びを導く教育を行う。
7. 学士課程前期においては、高校までの教育課程及び入学選抜方法の多様化に配慮したうえで、専門分野の履修に無理なく進むことができるよう、「基幹基礎科目」、「専門基礎科目」などの「基礎科目」を中心に多様な科目を編成する。
8. 学士課程後期においては、多様かつ多数の「専門科目（選択）」を確保し、教育すべき内容の増大および社会の多様な要求に対応する。
9. 学士課程の集大成として、最終学年次に卒業研究またはこれに代わる有為な人材育成のための科目を配置する。
10. 他学部や大学院で開講されている科目であっても積極的に履修を認め、学生が幅広い学習機会を持てるようにする。
11. 優秀な教員を養成するため、きめ細かな教職課程を編成する。

入学受入れの方針[アドミッション・ポリシー]

建学の精神と実力主義の伝統に基づく、理学部第一部の基本理念のもと、

1. 高等学校までに習得しておくべき英語、数学などの基礎知識が習得されていること
2. 数学・物理・化学の各専門分野の基礎知識が十分に習得されていること
3. 思考力、判断力、表現力などが十分な水準にあること

を多様な選抜方法により広く求める。

【入試形態ごとの入学者に求める能力と、その評価方法】

（A 方式入学試験）

幅広い科目に対する基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、大学入学共通テストの得点を用いて選抜する。

（B 方式入学試験）

各学科の特性に見合う基礎知識とそれを応用する能力及び思考力、判断力を持つ人を、独自の学力試験（数学、英語、理科）の得点を用いて選抜する。

（C 方式入学試験）

理数系科目を中心に幅広い基礎知識と思考力、判断力を持つ人を、本学独自の学力試験（数学、または数学と理科）と大学入学共通テスト（国語、外国語）の得点を用いて選抜する。

（グローバル方式入学試験）

本学の特性に見合う基礎知識と思考力、判断力及びコミュニケーションスキルとしての英語力を持つ人を、本学独自の学力試験（数学、理科）と英語の資格・検定試験の成績を用いて選抜する。

（学校推薦型選抜（指定校制））

高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人で本学を第1志望とする人を、書類審査、面接、口頭試問により選抜する。

（総合型選抜（英語資格検定＋特定教科評価））

高等学校段階までの基礎知識と思考力、判断力、表現力を持ち、自ら学ぶ意欲と国際的な視野を持つ本学を第1志望とする人を、書類審査、英語の資格・検定試験の成績、小論文、面接、口頭試問により選抜する。

（帰国生入学者選抜、外国人留学生入学試験）

学問に対する姿勢や考え方、海外で身に付けた能力を持ち、自ら学ぶ意欲のある人を、書類審査、資格・検定試験の成績、小論文、面接、口頭試問等により選抜する。